

DSM のディアブロ・テクノロジーの特許をヨーロッパ特許庁が改めて承認

ライフサイエンスとマテリアルサイエンスのグローバル企業であるDSM社（以下、「DSM」）では、2015年10月29日にドイツ・ミュンヘンにて開かれた「Diablo Technology（ディアブロ・テクノロジー）」に関する特許無効審判において特許取消請求が退けられ、本テクノロジーの特許権がヨーロッパ特許庁に改めて承認されました。ディアブロ・テクノロジーはポリアミドの長期耐熱性（連続使用温度）と短期耐熱性（荷重たわみ温度）を向上させるDSMが開発した、様々なポリアミド系樹脂に適用可能な技術です。DSMでは、同テクノロジーのライセンス提供を行ってきたため、本特許を侵害する製品と正規品が市場で混在している可能性があることから、この度の特許審決を受け、熱可塑性樹脂を部品素材として使用している各メーカーに対し、同樹脂の法的な確認を呼びかけています。

ディアブロ・テクノロジーは、安定した機械的性能を保持しながら、200度以上の環境下において3000時間連続しての使用に耐えるなど、長期耐熱性や短期耐熱性において他の樹脂と比べて極めて優れた性能を発揮します。そのため、自動車業界を中心に数多く使用されており、インテークマニホールド一体型水冷式インタークーラー、エアダクト、インタークーラー・エンドキャップ、ミキシングチューブやレゾネーターなど長期耐熱性が重要視されるエンジン周辺部品を中心に、部品性能の向上に貢献しています。また、様々な種類のポリアミドに適用することも特徴の1つで、DSMの自社製品である Stanyl(スタニール)[®]や Akulon (アクロン)[™] ポリアミドに搭載して超高耐熱グレードとして供給しているほか、他社の素材メーカーへのライセンス提供も行っています。

カート・マシュケ 顧客担当マネージャーのコメント；

上記のような条件の下で、性能の低下が見られない場合、DSMのディアブロ・テクノロジーが、正しくライセンス供与されていないものも含めて、使用されている可能性が高いと考えられます。このような場合、熱可塑性樹脂を使用されている部品メーカーには、高額な費用が掛かる評価プロセスを行う前に、法的な確認することを強く勧めます。

DSM社の顧問弁理士 ジェシカ・パシフィコ氏のコメント；

DSMは特許を重視しており、世界中で当社の技術と権利を守ることに注力しています。ディアブロ・テクノロジーはライセンス・ユーザーとDSMに多くの利益をもたらす重要な技術であり、我々の権利を守るために正しいステップで順次問題を解決していくことが必要と考えています。OEM やシステム・サプライヤーには、本件に関するご質問があれば、是非、お問い合わせを頂きたいと考えています。

本リリースに関するお問合せ先

ディー・エス・エム ジャパン広報事務局（アズ・ワールドコム ジャパン株式会社内） 担当：水谷、馬屋原
TEL：03-5575-3221 / e-mail：atsutake@w-az.co.jp（水谷）、mana@w-az.co.jp（馬屋原）

ディーエスエムジャパンエンジニアリングプラスチック株式会社 担当：興野
Tel: 03-5404-8301 / e-mail: keiko.kyono@dsm.com

DSM – Bright Science. Brighter Living.™

DSM 社は、科学をベースとして健康、栄養、材料分野で活躍しているグローバル企業です。ライフサイエンスとマテリアルサイエンスにおける独自の技術を組み合わせることで、経済的繁栄、環境問題への取り組み、そして社会の発展を促進し、DSM と関わる全ての人々にとって持続可能な価値を創造します。また、DSM は食品や栄養補助食品、パーソナルケア、飼料、医療機器、自動車、塗料、電気・電子機器、ライフプロテクション、代替エネルギー、バイオベース素材などのグローバル市場において、顧客企業の業績向上・維持に貢献できる革新的なソリューションを提供します。年間の純売上高はおおよそ 100 億ユーロ、社員数は 25,000 名で、NYSE Euronext に上場しています。詳細については www.dsm.com をご覧ください。

* 本リリースは 2015 年 11 月 19 日に DSM 社から発表されたプレスリリースを抄訳したものです。

将来予測に基づく記述

本プレスリリースには、将来予測に基づく記述が含まれています。これらの記述は DSM 経営陣による現時点での期待、推定、予測、および現時点で当社が入手可能な情報に基づいています。これらの記述には、予測が困難な特定のリスクと不確実性が含まれることから、DSM はその予測の実現については保証しません。また、DSM は本プレスリリースに含まれる記述を更新する義務を負いません。